

葛南土木事務所所長 荒木健一様

自然環境に関する質問

大柏川第2調節池連絡会

平素から大柏川第2調節池の整備事業について当会（大柏川第2調節池連絡会）からの提案・意見交換、協働作業などの場を開催いただき感謝しております。

昨年度は上平素から大柏川第2調節池流部（上池）の右岸側で地下水対策工事が行われ、今年度は左岸側で工事着手するとのことです。

そこで今回、上池に絞り、これまで私たちが報告・提案している自然環境に配慮すべき事項について、これまでの検討経過や現在の見解をお伺います。

（1）周囲の細流（小水路）の保全について

①地下水対策工事及び周囲堤築造で、細流L13が直接的な影響を受けると思われます。L13は途中に自噴泉があり、L12と共に上池左岸の主要な給水源で、ハンノキ林等の保全に重要です。また、L12、13の水源は船橋市藤原飛地の谷地川にありますが、生活雑排水の混入等の問題があり湧水量の確保と共に保全対策が必要と考えます。

細流L12、13の保全策を伺います。

（2012年3月「水路水源調査」参照）

②工事中道路工事で細流L18が直接的な影響を受けると思われますが、その保全策を伺います。（2012年3月「水路水源調査」参照）

③周囲の細流（小水路）の導入工法とその水（湧水・地下水）の活用方法を伺います。特に、復元・創造域P、Qでビオトープ池の設置と導入した湧水・地下水の掛け流しなどの活用についてはどう考えますか？

④上池の調節池底面は平均で約1m下がるのようですが、池横断面の構造を伺います。一様の深さにするのではなく、棚田状に小段を設けて掘削し、その小段に水深50cm程のビオトープ池（2013年3月「動植物の生息に配慮すべき事項」参照）を設け、湿地の復元をしてはどうでしょうか？

（2）地下水対策工事はセメント粉体注入する遮水工事とのことですが、自然環境への影響を伺います。セメントによる地下水や周辺土壌のアルカリ化はないのでしょうか？

（3）2013年3月動植物に生息に配慮すべき事項で示した保存樹林E、F、G及び重点保全域、D、N、O及び復元・創造域P、Qのそれぞれの保全対策について、検討経過や現在の見解を伺います。（2013年3月「動植物の生息に配慮すべき事項」参照）

(4) 昨年度、上池右岸の地下水対策工事が行われた重点保全域Nはアカガエル（千葉県が最重要保護生物に指定）の産卵地で湿地環境を保全する必要があります。特に、鎌ヶ谷市「ほたるの里」の前面の工事区域は用地変更で台地寄りに拡張され重要と考えます。アカガエルの生育には、細流を調節池内に導入して湿地を維持すると共に、水辺と連続した林地が必要です。外周堤や側溝、フェンスをまたいで北側に隣接する斜面林と調節池の間を小動物が移動できるような対策を検討したいと考えますが、如何でしょうか？（2013年3月「動植物の生息に配慮すべき事項」参照）

(5) 掘削工は圧密工法を中心に検討中とのことですが、圧密工法の自然環境への影響を伺います。アカガエルは冬～春に繁殖しますが、工事期間に産卵場所が圧密のために盛土されれば生息できません。いつどこを工事するかも動植物の存続に大きく影響しますので、工事日程について伺います。

(6) 埋土種子の保全と植生回復の観点から表土の保全と再被覆について伺います。2014年に暫定貯留池を掘削した時に池底面の1部に表土を埋め戻しました。今後も表土を残土として外へ捨ててしまうのではなく、再被覆に利用する事は検討されていますか？（2014年8月当面の工事における植物の移植案等について）

(7) 池の中央を流れる大柏川は多自然川づくりで改修すると聞いています。水際の作り方など川の改修についてはどのような検討をされていますか？

以上

なお上記の質問についての説明を受けるにあたり、調節池の平面図、各断面図、川の断面構造、管理用道路整備図等を見せて頂きたいをお願いします。

さらに実施設計にあたっての諸条件（計画地の面積、貯留量等）や今後の工事予定についてもお知らせください。

よろしくお願い致します。

大柏川第2調節池連絡会

連絡先 鳥居雪子 市川市八幡 6-9-6

電話 047-333-0852